

授業作り	重 点	基礎・基本を徹底し、学力下位層のフォローを行う。
環境作り		自らの考えを言語化し、文章を書いたり、発表する機会を設定したりする。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国 語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の領域が下回っていることから「書く」学習指導の工夫が必要。</li> <li>・言葉の理解、漢字の読み書き、文章の正確な理解に課題の見られる生徒、事象や心情、思考等を文章化することじたいが苦手な生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な漢字の読み書きの習得、語彙力の向上が必要である。</li> <li>・文章の正確な理解が必要である。</li> <li>・状況や自分の考えを言語化して、文章を書く習慣を付けさせる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①ワークブックを用いた語彙の確認</li> <li>②漢字の学習を習慣化</li> <li>③定期的なデジタルドリルの活用</li> <li>④自己の考えや根拠を文章にする学習</li> </ul>
数 学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考・判断・表現が1学年は27%、2学年は46%と観点間の差が大きい。</li> <li>・全学年に共通して中間層が比較的薄く、学力の二極化があると考えられる。</li> <li>・計算の基礎が未定着な生徒、一人で課題を進められない生徒、言語が未定着な生徒が複数在籍している。</li> </ul>	<p>【下層の引き上げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年にも家庭学習の取り組みに課題があるので定期的に小テストなどを取り入れ、自学自習を促す。</li> <li>・基本的な用語、計算を強化する必要がある。</li> <li>・習熟度クラス分けを適切に実施する。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の学習内容を用いて、自分の考えを表現する活動を増やす。</li> <li>・図や式をみて考えを説明したり、考え方を読み取る活動を増やす。</li> </ul>	<p>【下層の引き上げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①授業規律の徹底。</li> <li>②授業で扱う内容の厳選と、毎時間宿題をできる限り出す</li> <li>③計算コンテストを行う</li> <li>④定期考査における技能観点の達成率で全学年 65%以上を目指す。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤生徒の発言を引き出す</li> <li>⑥デジタルドリルの活用</li> </ul>
理 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考・判断・表現が全国平均を下回っている。</li> <li>・基礎の徹底は行えているが、さらに応用力を鍛えるため、実践的な問題に取り組む機会を増やしていく。</li> <li>・デジタルドリルの活用と、ワーク・小テストの活用により、基礎基本の向上に効果が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2学年において、学力下位層の底上げと習熟の程度に応じた指導を継続していく必要がある。</li> <li>・3学年において、さらに理科の力を育むため、今までに得た知識を活用していく力を身につけさせる。</li> <li>・基本的な概念を理解はしていても、記述により説明できない点について、適切な言葉で説明する力を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①デジタルドリルの活用</li> <li>②単元ごとに問題演習や小テストを行う</li> <li>③実験の授業時、考察を文章で適切に表現させることを重点的に行う。</li> <li>④図や表を読み取る際に、図と語句のセットで繰り返し説明し、必要な生徒には語句の練習を補習しながら、定着を図る。</li> </ul>

<p>社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的分野の知識・技能の観点が下回っている。</li> <li>・家庭での学習が不十分な生徒が多い。</li> <li>・資料から必要な情報を読み取り、資料が何を意味しているのかを理解することができない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年も学力下位層の底上げと習熟の程度に応じた指導が必要である。</li> <li>・歴史的、地理的、公民的用語や重要項目にあたる基礎の定着が必要である。</li> <li>・資料を読み取る分析能力が弱いので、強化する必要がある。</li> <li>・日本語の意味（語彙）を、丁寧に伝えていく必要がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ワークブックや単元テストの活用</li> <li>②学習の習慣化と反復練習</li> <li>③定期的なデジタルドリルの活用</li> <li>④ICT機器の効果的な活用</li> </ol>
<p>英語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎問題と応用問題の平均得点を比較すると、基礎問題の得点率のほうが高く、単語や文法の知識・技能の定着に課題が見られる。</li> <li>・家庭学習については、取り組みにおける個人差が大きく、全体的に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力下位層の学習のつまずき及び苦手意識の克服に課題がある。</li> <li>・学習の習慣化、宿題への取組に課題がある。</li> <li>・英語の知識や技能を、意味・形式・機能3つの側面で定着させ、思考力・判断力・表現力につなげていく必要がある。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①家庭学習を細かに指示し、定期的に取り組みを確認することでの習慣化</li> <li>②スペリングコンテストやレポートの提出</li> <li>③デジタルドリルの活用</li> <li>④基礎基本の確認となるような帯学習の実施</li> <li>⑤定期的にパフォーマンステスト（スピーチ、スキット等）を実施</li> <li>⑥ALT や TT、少人数授業の効果的な活用</li> </ol>